



play.fiba3x3

JAPAN TOUR 2021



JAPAN TOUR

Coronavirus

(COVID-19)

感染予防対策マニュアル

Name

【決定稿】

【目次】

- P3 はじめに、ガイドライン策定の基本方針
- P4 運用方針について
- P5 大会実施方針と大会の判断基準について
- P6 事業・活動実施方針と事業の判断基準について
- P7～13 感染対策について
- P14～15 移動・宿泊について
- P16 開催時における感染予防対策について
- P17 選手および関係者エントリーフロー
- P18 当日受付フロー
- P19 エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ（事前留意内容）
- P20 エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ（当日留意内容）
- P21 運営スタッフの皆様へ
- P22～23 チーム・選手チェックリスト
- P24 健康チェックフォーム
- P25 感染予防対策機器
- P26～29 感染予防対策用具
- P30～31 会場導線図
- P32 緊急対応
- P33 メモ

【はじめに】

本感染予防対策マニュアルは、JBA「バスケットボール活動再開に向けたガイドライン」に基づき、3x3 JAPAN TOUR 2021を安全に開催するためのものである。
なお、本ガイドラインは現段階で得られている知見等に基づき作成しており、今後、状況に応じて、本ガイドラインについても見直すことがあり得ることにご留意ください。

【ガイドライン策定の基本方針】

本ガイドラインの策定にあたっては、以下の項目を基本方針とする。

1) 安全最優先

生命・健康の安全を最優先とし、感染拡大のリスクを最大限に排除した、選手・チーム、指導者、審判、運営スタッフ、それらの方のご家族等が安全に活動できる環境を提供します。

2) 「新しい日常」・「新しい生活様式」への適応

Before コロナの「日常」が即座に戻ることは無いということを前提に、置かれた状況の正確な分析・理解に基づくガイドラインを設計します。

3) FIBA再開ガイドライン

FIBA（国際バスケットボール連盟）より再開におけるガイドラインが公開されており、バスケットボール競技の特性を考慮しながら作成します。

4) 不当な扱いや差別などの禁止

感染状況で異なる活動差をもって選手やチームを不当に扱うことはせず、感染状況に起因する一切の差別や誹謗・中傷を許容しません。

【運用方針について】

本ガイドラインの運用にあたっては、以下の項目を運用方針とする。

1) 本ガイドラインの拘束力

本ガイドラインは3x3 JAPAN TOUR 2021（以下、本大会）実施において留意点等をまとめたものであり、本大会の活動に対して拘束力を持ちます。保護者同意書、健康チェックシートの提出が義務づけられ、健康チェックシートに虚偽の報告があった場合は、厳重な処分を課す場合もあります。

2) 本ガイドラインの適用の優先度

本ガイドラインは主に政府の方針や上位団体が作成する指針に基づき、チーム等が活動する際に参考にするために作成されたものであることから、その適用にあたっては、その時点での政府及び各自治体の方針や上位団体が作成するガイドラインが優先されるものとします。

3) 運用の際の留意点

チーム等においては、各地域での事業や活動を実施する際には、まずは当該地域での自治体の方針や指導を遵守いただくとともに、選手等の安全を最優先として、活動の開始時期や事業実施の可否について最終的な判断を行って頂くようお願いいたします。

4) 事業と活動に分けた判断基準

実際のバスケットボール活動と本大会開催で判断基準を分けて考えます。活動の可否判断では感染拡大防止及びけが防止(選手のコンディション)の2点を考慮する必要があり、事業の可否判断では感染拡大防止を考慮します。

5) 本ガイドラインの改定

本ガイドラインは、政府の方針や上位団体の示すガイドラインに変更があった場合やJBAが必要と判断した場合に改定を行うものとします。

【大会実施方針と大会の判断基準について】

1) 大会実施方針 (2021年1月8日スポーツ庁通達 (新型コロナウイルス感染症の対処に関する全般的な方針) 参考)

- ① JBAは、新型コロナウイルス感染拡大の兆候ありと判断した場合には、大会の制限や中止について、適切に判断することを厭わない。
- ② JBAは、大会の実施のためには新型コロナウイルス感染対策の徹底が大前提であることを再確認し、大会の実施を検討する。
- ③ JBAは、これまでの感染拡大期の経験を踏まえ、より効果的な感染対策等を講じ、参加者に実施を徹底させる。
- ④ JBAは、緊急事態措置を実施すべき区域においては、バスケットボール事業・活動を幅広く止めるのではなく、感染リスクが高く感染拡大の主な起点となる場面に効果的な対策を講じながら、大会の実施を検討する。
- ⑤ JBAは、緊急事態措置を実施すべき区域以外の地域においては、地域の感染状況や自治体の発出する情報を踏まえながら、感染拡大の防止とバスケットボール事業・活動との持続的な両立を図っていく。その際、感染状況は地域によって異なることから、JBAが適切に判断する必要があるとともに、大会に繋がりのある地域の感染状況に留意する必要がある。
- ⑥ 本ガイドラインの実践と科学的知見に基づく進化を促していく。

2) 大会の判断基準

本ガイドラインでの判断基準は「政府、都道府県（知事や教育委員会等）、行政機関（首長や市町村教育委員会等）から発出されるイベント開催制限等により活動制限や活動停止が指示された場合および主催者の総合的判断」とします。

実施都道府県内の感染状況（「ステージを判断するための指標」次に記載）、自治体の方針（移動制限、イベント開催制限、会場借用の可否等）、参加者の所属元方針（学校、連盟等）、開催地の実情等を総合的に鑑み、大会の中止や制限を決定します。

【事業・活動実施方針と事業の判断基準について】

3) 大会の中止・出場禁止または参加資格取り消し等について

- ・ 「大会中止に至る状況」に該当した場合、大会中でも急遽中止せざるを得ない場合がある。
- ・ JBAは、出場チームが十分な回復期間が確保されない場合は、原則として出場禁止または参加資格を取り消すことができる。
- ・ JBAは、大会までに陽性者の回復、濃厚接触者の隔離期間解除がなされない場合は、出場禁止または参加資格を取り消すことができる。
- ・ JBAは、出場チームに感染疑いが生じて安全性の判明が間に合わない場合は、出場辞退を勧告し、または参加資格を取り消すことができる。
- ・ JBAは、大会中に出場チーム（対戦相手チームの場合もある）に濃厚接触者や感染疑いが生じた場合は、出場辞退を勧告し、または参加資格を取り消すことができる。
- ・ JBAは、大会中に出場チームに37.5度以上の発熱者および別に記載(p.7、8)のCOVID-19を考慮する症状を有する者が生じた場合は、出場辞退を勧告し、または参加資格を取り消すことができる。
- ・ JBAは、対戦済みの相手に感染疑いが発覚した場合、次戦がある当該チームに対して棄権を指示（勧告）できる。

4) 偏見・差別等への対応（2021年1月8日スポーツ庁通達（偏見・差別等への対応、社会課題への対応等）を参考）

JBAおよび関係団体において、スポーツ庁通達を踏まえ、以下の取り組みに留意する。

- ・ 新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識の普及に加え、政府の統一的なホームページ（corona.go.jp）等を活用し、偏見・差別等の防止等に向けた啓発・教育に資する発信を強化すること。
- ・ 悪質な行為には法的責任が伴うことについて、政府の統一的なホームページ等を活用して、幅広く周知すること。
- ・ クラスタ発生等の有事対応中においては、感染症に関する正しい知識に加えて、感染者等を温かく見守るべきこと等を発信すること。

【感染対策について】

1) 参加資格

- (1) 選手、スタッフは大会4日前～大会当日～大会期間中において、以下に該当しないこと。
1. 37.5℃以上の発熱がある
 2. 咳（せき）、のどの痛み、などの風邪症状がある
 3. だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難が）がある
 4. 臭覚や味覚の異常がある
 5. 体が重く感じる、疲れやすい等がある
 6. 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある
 7. 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる
 8. 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察機関が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある
- ※上記に該当した際は、主催者にて大会参加を取り消す場合がある。

【その他通知要項】

- (1) 本大会への出場権を得たチーム・選手は、本大会が定める本ガイドラインの各種事項について遵守するものとし、虚偽等は一切あってはならない。
- (2) チームの新型コロナウイルス感染対策責任者（※感染対策責任者については9ページ目を参照）は、大会当日に検温を行い、事前健康チェックフォーム（エントリーしているチームスタッフ、選手分）で報告した検温に発熱期間がないことをチームチェックインで確認し、会場への入場許可をもらうこと。（検温結果および健康状態によっては入場をお断りする場合がある）
また、大会開始日4日前～大会期間中にチーム内で上記(1)の事項を含み、陽性者・濃厚接触者・体調不良者が発生した場合は、速やかにJBAへ連絡すること。
（その際、その者の発症日または承認日から48時間を遡って行動記録を把握しておくこと）
- (3) 「上記【参加資格】の(1)」の事項を含め、新型コロナウイルス感染症と疑われる体調不良者が発生した際は、試合中であつたとしても出場資格を取り消す場合がある。
- (4) 出場する試合の4日前以降において、新型コロナウイルス感染症と疑われる体調不良者が発生した場合は、その者の来場と試合への出場を不可とする。
加えて当該チームの感染対策責任者は、前述の体調不良者との濃厚接触者を確認し、JBAと協議のうえ、非接触者と断定できる選手が3名以上(競技規則に則る)揃わない場合は不戦敗とする。また、体調不良者が発生した後で、保健所等の判断を仰ぐにあたり、その後の大会運営等に大きな支障をきたす場合は本大会を中止する場合がある。

【感染対策について】

- (5) 政府や都道府県から新たな措置（緊急事態宣言や自粛要請等）が発出された場合は本大会を中止する場合がある。また不可抗力により、出場チームから辞退が発生した際、大会参加 チーム数の30%以上に至った場合は、大会主催者にて大会中止を検討し、中止可否を決定後、速やかに参加チームに通知する。

2) 陽性者/濃厚接触者/体調不良者の定義

(1) 「陽性者」とは

以下の症状の有無にかかわらず、「PCR 検査・抗原検査により新型コロナウイルス感染症と診断された者」を指します。

～新型コロナウイルス感染症が疑われる症状～

発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐など

(2) 「濃厚接触者」とは

陽性者の感染可能期間内に接触した者のうち、次の範囲に該当する者を指します。濃厚接触者は陽性者が判明した際に保健所が特定するので、行動履歴の記録は非常に重要です。

- 陽性者と同居あるいは長時間の接触(車内、航空機内等を含む)があった者
- 適切な感染防護無しに陽性者を診察、看護若しくは介護していた者
- 陽性者の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- その他: 手で触れることの出来る距離(目安として 1メートル)で、必要な感染予防策なしで、陽性者と15分以上の接触があった者(周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する)

(3) 「体調不良者」とは

以下の目安に該当する方と考えられます。

厚生労働省が発表している以下いずれかの目安に該当する方は、「帰国者・接触者相談センター」に相談してください。地域によっては医師会や診療所等で相談を受け付けている場合があります。

1. 息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱などの強い症状のいずれかがある場合。
2. 重症化しやすい方(高齢者や基礎疾患がある人)で、発熱やせきなどの比較的軽い風邪症状がある場合。
3. 比較的軽い風邪が続く。
※ 発熱症状が出ない感染ケースもあるため、上記症状を感じた場合は必ず相談してください。

【感染対策について】

3) 感染対策責任者（担当者）の設置

- ・ 参加チームは感染対策責任者(担当者)を設置してください。
- ・ 感染対策責任者（担当者）は、大会前・大会期間中・大会後にチーム内（チームスタッフ、選手）で、陽性者や濃厚接触者が発生した際に、JBAに報告する義務があります。
- ・ 感染対策責任者(担当者)は日常のチーム活動において健康チェック、検温を選手やスタッフが行うことを管理し、陽性者や濃厚接触者が発生した際の保健所との情報連携を行う担当となることが求められます。
感染してから対応を考えるだけでなく、いかにして陽性者を出さないようにするか対応を行うことが大切です。

4) 健康チェックリストの記録と管理

- ・ 本大会に参加するチームスタッフ、選手は本大会が開始される2週間前からJBAが指定する「健康チェックフォーム」で健康状態を記録する必要があります。感染対策責任（担当者）はこの管理を行ってください。
※エントリー変更がある場合、エントリー変更後の選手の健康チェックフォーム（2週間前からの検温必須）の提出が必要になります。エントリー変更の可能性のある選手全員の健康状態は2週間前からの記録をお願いします。

【体温測定、体調チェック】

体温測定：選手、チームスタッフ、大会期間中チームに帯同する保護者、審判、関係者、スタッフは必ず毎日実施してください。

<統一事項>

- ・ 毎日同じ条件、同じ測り方で実施してください
- ・ 37.5℃以上の発熱が2日間続いた場合は、自宅待機とし即座に感染対策責任者へ報告してください。大会4日前からは1日でも37.5℃以上の発熱があった場合は、大会の参加はできません。
- ・ その他体調の自己申告：
（例）せき、頭痛、体のだるさ、のどの痛み、食欲低下、睡眠時間、味覚や嗅覚の異常
- ・ 発熱症状が無い場合でも上記症状が続く場合は感染対策責任者へ報告を行ってください。
- ・ 体調不良者はコロナウイルス感染対策責任者へ連絡し、感染対策責任者はJBAに報告してください。

【感染対策について】

5) 行動記録

選手、チームスタッフ、審判、関係者、運営スタッフに感染確定、陽性判定、濃厚接触者が出たときに備え、毎日の行動記録を残しておくこと。

行動記録の中でクラスターの発生・感染者・濃厚接触者が発生した場合には、症状等がない場合でも、自身の行動記録の過去2週間内に「自身が行った場所でのクラスター発生」、「対面した人がコロナウイルスに感染した」、「対面した人が濃厚接触者と判断された」場合は、即座にコロナウイルス感染対策責任者へ報告し、コロナウイルス感染対策責任者は即座にJBAへ報告すること。

6) 新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)のインストール

大会当日(または設営日)までに、新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)をインストールを必ず行うこと。

(厚生労働省が提供するスマートフォン向けCOVID-19アプリをインストールし利用していただきます。陽性者と接触した可能性が分かることで、検査の受診など保健所のサポートを早く受けることができ、利用者が増えることで、感染拡大の防止につながることを期待されます。)



【感染対策について】

7) 感染対策(選手、チームスタッフ、審判、関係者、運営スタッフの皆さま) 「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、**できるだけ2m(最低1m)** 空ける。
 - 会話をする際は、可能な限り**真正面を避ける**。
 - 外出時や屋内でも会話をするとき、**人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを**着用する。ただし、**夏場は、熱中症に十分注意**する。
 - 家に帰ったらまず**手や顔を洗う**。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - 手洗いは30秒程度**かけて**水と石けんで丁寧に**洗う(手指消毒薬の使用も可)。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに**手洗い・手指消毒** 咳エチケットの徹底
- こまめに換気(エアコン併用で室温を28°C以下に) 身体的距離の確保
- 「**3密**」の回避(密集、密接、密閉)
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



密集回避

密接回避

密閉回避

換気

咳エチケット

手洗い

【感染対策について】

8) 感染対策（選手、チームスタッフ）

感染のリスクを最小限にするために、新型コロナウイルスの主な感染経路が飛沫感染と接触感染であることを念頭に、感染防止の3つの基本である、十分な距離の確保、マスクの着用、そして手洗い・手指消毒を含めた、以下の感染対策を実施する。

① ソーシャル・ディスタンス（感染拡大を防ぐために物理的な距離をとること）を確保

- ・人と人の間の距離を2メートル以上とり、ソーシャル・ディスタンスを保つようにする。
- ・施設の広さにより、2メートル以上のソーシャル・ディスタンスが確保できない場合は、同時に活動する参加人数を制限する。あるいは、より広い施設や屋外を利用する。
- ・活動中、ベンチでも、このソーシャル・ディスタンスを確保する。
テープやペイントで印をつけることで、ソーシャル・ディスタンスを保つことがある。

② マスクの使用

- ・試合中、マスク着用を希望する選手については着用を許可する。ただし、熱放散が妨げられることから、熱中症のリスクを考慮して運動強度を落とし、且つスポーツ用のマスクを着用すること。（選手以外は、3層式サージカルマスクを推奨）
- ・顔全体をカバーするフェイスシールド（あるいはヘルメットのようなもの）については、着用している個人あるいはチームメンバー、対戦相手に意図しない怪我のリスクを増加させるため、競技中の着用は許可しない。
- ・チームスタッフ、運営スタッフは常にマスクまたはフェイスシールドを着用する。
- ・マスクを着用していない場合は、周囲との距離を十分保ち、不必要な発声や会話を控える。
- ・息のあがるような高い負荷の運動中はマスクを使用せず、ソーシャル・ディスタンスを意識的に確保する。また、運動中以外はマスクを必ず着用する。
- ・ホイッスル代わりに、エアホーンやアラーム付きのタイマーシステムのような人工的に音を発生する機器を用いて対応することもある。

③ 手洗いや手指消毒を行う

- ・施設を利用する前後や、多くの人が頻繁に触る物に触れた後は、石鹸と水で30秒以上手を洗う、あるいは手指消毒(70%以上のアルコール消毒液)を行う。
- ・手指消毒液を人が通りやすいところに設置することで、利用しやすくする。
- ・定期的に手指消毒を行う。（例：水分補給の時）
- ・掲示物等で手洗いや手指消毒を促す。

④ 換気を行う

- ・窓を開けたり、換気扇を利用したりして、常に、あるいは定期的に換気を行う。

⑤ 備品などの共有をしない

- ・選手間での備品（例：ビブス、タオル）の共有はしない。
- ・選手は各自のウォーターボトル、あるいはペットボトルを使用し共有しない。
- ・ジャグタンクやクーラー等を共有しない。

【感染対策について】

⑥施設の管理、清掃、消毒を行う

- ・施設を開放する前に備品を含めた施設の安全確認を行う。
- ・清掃スケジュールを作成し、実施する。
- ・清掃を行う際は、マスクや手袋を着用し、清掃前後は石鹸と水で30秒以上手を洗う、あるいは手指消毒を行う。
- ・鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ごみを回収する際は、マスクや手袋を必ず着用する。
- ・人が多く触る場所や多く通る箇所の清掃・消毒を利用の前後に実施する。
- ・運動器具、用具は定期的に消毒する。
- ・更衣室または待機スペースは、広さにゆとりを持たせ、他の利用者と密になることを避ける。

⑦他の感染予防

- ・顔に触れるのを避ける。
- ・くしゃみや咳をする際には、咳エチケットに注意する。(例：ティッシュ使用か、肘や手で覆う)

9) 感染または、感染の疑いがある場合の報告事項

①報告する事象

下記に当てはまる場合、該当者は自宅待機とした上でコロナウイルス感染対策責任者を通じ、JBAへ報告を行うこと。

- ・37.5℃以上の発熱が2日間続いた場合(平熱が低い方はプラス1.5度を基準とする)
- ・せき、頭痛、体のだるさ、のどの痛み、食欲低下、睡眠時間、味覚や嗅覚の異常が続いた場合。
- ・発熱が無くても「息苦しさ(呼吸困難)」「強いだるさ(倦怠感)」等の強い症状が発生した場合。
- ・大会で義務付ける検査以外でPCR検査を予定している。
- ・上記のPCR検査の結果が出た場合。
- ・濃厚接触者指定を受けた、または疑わしい場合。

②報告時に網羅するべき内容

- ・症状が発生している当該者の役職や所属セクション。
- ・発生している症状と、発生期間。
- ・医療機関の受診状況や、チームドクターなどへの相談経過。
- ・選手やチームスタッフ、関係者との接触歴。(症状発生から2日前にさかのぼって)
- ・関係者内での接触歴。(症状発生から2日前にさかのぼって)

③選手、チームスタッフ、審判、関係者、スタッフおよび家族も含めた関係者に疑い例が出た場合の対応

- ・該当者は症状が出た日から14日前までの行動記録と、症状が出た日以降の行動記録のヒアリング、症状を自覚したタイミングで報告/自宅待機を行う。
- ・該当者は速やかに専門家・連携医療機関への連絡する。
- ・各地域の専門家・連携医療機関のアドバイスにもとづく濃厚接触者の洗い出し、濃厚接触者の抽出および集団発生に対するリスク管理を行う。

④報告頂いた内容・相談内容の取り扱い

- ・専門家チーム、JBA内コロナ対応班だけが情報の閲覧を行う。
- ・関係者に共有する場合には、必要に応じて個人情報を取り除いたうえ、共有する。

【移動・宿泊について】

1) 都道府県をまたぐ移動について

緊急事態宣言が解除され都道府県をまたぐ移動が認められることが前提とする。
都道府県をまたぐ移動の制約が再び決定した場合は、JBAに相談のうえ、指示に従うこと。

2) 個人での移動について

- ・公共交通機関を利用しないことを推奨する。
- ・自家用車などで移動する場合も、乗り合わせを避け、個人でのアクセスを推奨する。
- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。

3) タクシーでの移動について

- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・移動中は出来るだけ窓を開け換気を行う。
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前、降車後に手指消毒を行う。

4) バスでの移動について

①バス使用時の留意点

- ・隣り合った座席は1席空ける。
- ・2時間以上などの長時間のバス移動の際には、個人単位でも予防対策を行う。

②チャーターバス利用の際の依頼事項

- ・事前の車内消毒
- ・運転手の体調管理。マスクや手袋の着用。

③その他注意事項

- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・移動中は出来るだけ窓を開け換気を行う。（1時間に3回の換気が推奨）
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前、降車後に手指消毒を行う。
- ・座席は隣同士での使用を避ける。（2席横並びの場合、どちらかの席を空ける）
- ・空調などを使用し、車内の空気の循環を良くする。
- ・サービスエリア等での休憩時もマスクの着用など感染予防対策を行う。

5) 新幹線での移動について

新幹線では車内に設置した空気調整や換気装置により6～8分程度で車内の空気を入れ替えています。

※参考：[JR 東日本「新幹線・在来線特急車両の車内空気循環について」](#)

- ・一般の利用者との接点を極力減らすため、座席は出来るだけチームで固まって使用する。
- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前と降車後の手指消毒、乗車中も手指衛生等に気をつける。

【移動・宿泊について】

6) 飛行機での移動について

航空機内の空気は常に機外から新しい空気を取り入れ、機内で循環され機外へ排出。約3分程度で入れ替わります。また各航空会社で感染拡大防止の取り組みが行われています。

※参考：[新型コロナウイルスに関するJALグループの対応ANAの取り組み](#)

- ・一般の利用者との接点を極力減らすため、座席は出来るだけチームで固まって使用する。
- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前と降車後の手指消毒、乗車中も手指衛生等に気をつける。

7) チームでの食事について

- ・選手の席は1.5~2mの距離をあけること。向かい合わせの配席は避けること。
※十分に広い部屋がない場合、グループ分けして食事時間をずらすなどの対応を行うこと。
- ・食事は基本的に一人ずつ取り分けた状態で用意すること。
- ・食事中、宿泊施設の方は極力部屋にいないようお願いすること。
※片付けはチームが退出したあとに行ってもらうこと。

8) ミーティングについて

- ・基本的にWeb会議などをメインにして、極力対面を避けるように心がけること。
- ・対面でのミーティングを行う場合は極力人数を絞り、常に社会的距離(できるだけ2m、最低1m)が取れる広い場所で行い、換気をこまめに行うこと。
- ・ミーティングを行う際は、出席者全員マスクを着用すること。

9) その他注意事項

- ・自室以外(食事の時以外)ではマスクを着用すること。
- ・エレベーターのスイッチや階段の手すりに、素手で触れないようにすること。
- ・控室の換気をこまめに行う。空気の乾燥によって、鼻、喉や気管の粘膜機能低下が起こりやすくなるため、控室内の状態は温度21度、湿度50~60%が推奨される。

【開催時における感染予防対策について】

◆対策内容

『会場面』

- ・ 入場口の数を制限する。
- ・ 受付にサーモグラフィーの設置。
- ・ 会場内外各所にアルコール消毒液の設置。
- ・ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する。
(布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること)
- ・ 選手控室および更衣室、スタッフ控室はソーシャルディスタンスを図る。
- ・ すべての導線は原則「one-way」とし往復ができないようにする。
- ・ 使用済みマスクおよび手袋専用のごみ箱の設置。

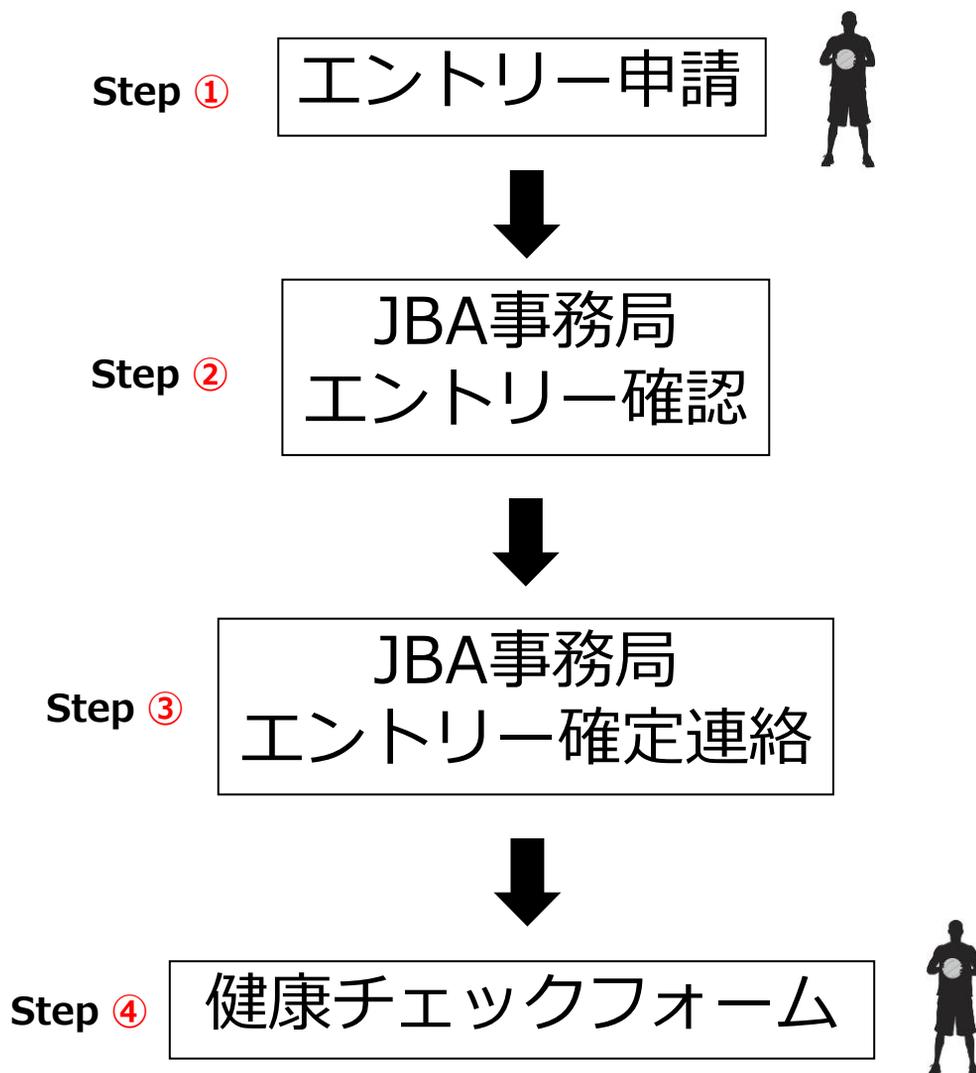
『競技面』

- ・ 会場内の密を避けるために、男女カテゴリー別で試合を実施。
- ・ カテゴリー間の時間は、器具のアルコール消毒及び選手のバッチィングを避けるため、2時間の間をあける。
- ・ 選手、レフリー、スタッフ待機エリアはソーシャルディスタンスでの配置。
- ・ テーブルオフィシャル及びMC&DJ卓へは飛沫防止シールド壁の設置。

『その他』

- ・ 選手および関係者、スタッフ全員のマスク着用徹底。
- ・ 選手および大会関係者全員の大会前事前検温及び当日の検温。
- ・ 会場等で発生したゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用する。
- ・ ゴミはビニール袋に入れ密閉して縛り、廃棄する。
- ・ マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する。

【選手およびチーム関係者エントリーフロー】

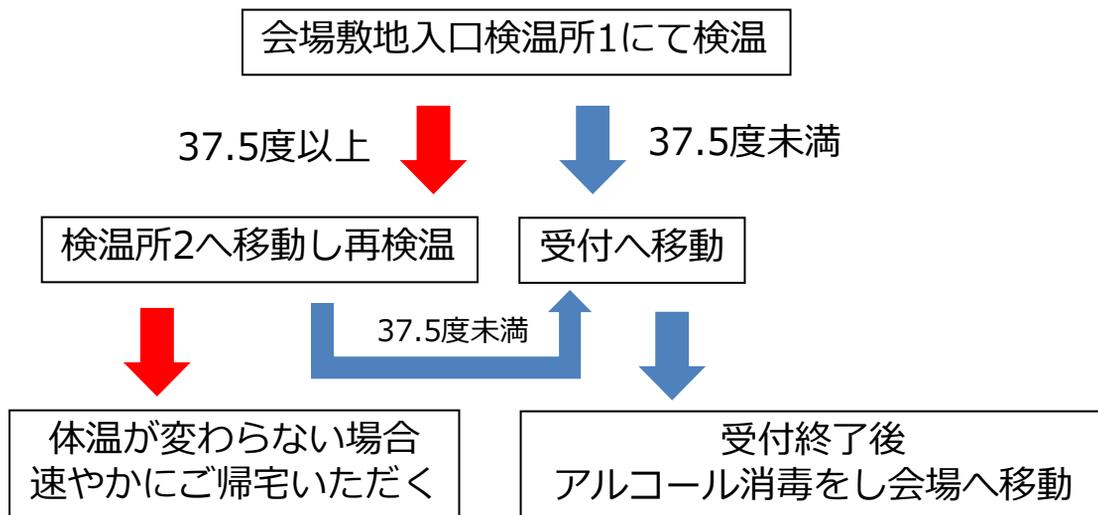


※大会14日前より検温を行い、毎日専用フォームにて報告。

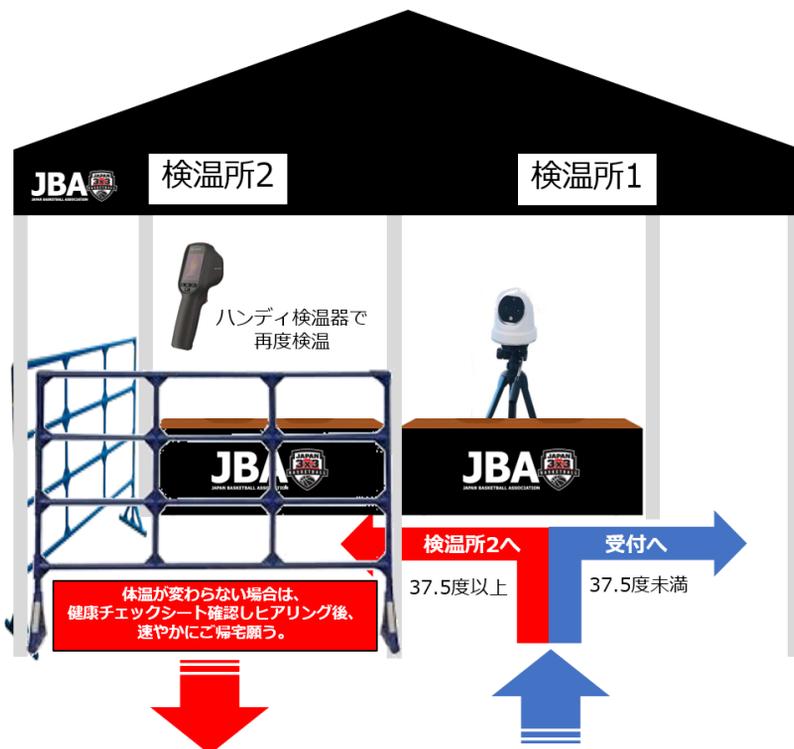
※大会4日前の検温および大会当日37.5度以上または平熱より+1.5度以上の発熱がある該当者はエントリーを取り消します。

※大会4日前の検温および大会当日発熱が確認された該当者のチームメンバーも濃厚接触の可能性が確認された場合、発熱がなくてもエントリーを取り消します。

【当日受付フロー】 ※スタッフ&選手共通



【検温所】



【エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ】

事前留意内容

大会当日まで下記の留意内容を遵守ください。

なお、大会当日も会場入り口にて検温検査を行います。37.5度以上または平熱+1.5以上の発熱があった場合、エントリーを取り消し速やかにご帰宅いただきますので、予めご了承ください。その際、チームメンバー（関係者含む）も濃厚接触の可能性が確認された場合、発熱がなくても同様の対応をさせていただきます。

『日常生活』

- ・ 不要不急の外出は控える。
- ・ 外出時や屋内でも会話を行う際は、必ずマスクを着用する。
- ・ まめに手洗い、手指消毒を行う。
- ・ 身体的距離の確保。(できるだけ2m。最低1m。)
- ・ 3密の回避。(密集・密接・密閉)
- ・ 毎日の体温測定、健康チェック。※健康チェックフォームでの報告が必須となります。

『練習』

(1) 十分な距離の確保

- ① 競技の種類に関わらず、運動をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離（2mが目安）を空けること。（介助者や誘導者の必要な場合を除く）
- ② 強度が高い運動・スポーツの場合は、呼気が激しくなるためより一層距離を空ける必要があること。
- ③ マスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をする必要があること。

(2) 位置取り

- ① 走る・歩くにおいては、前の人呼気の影響を避けるため、可能であれば前後一直線に並ぶのではなく、並走する、あるいは斜め後方に位置取ること。

(3) その他

- ① 運動・スポーツ中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと。
- ② タオルおよび飲料の共用はしないこと。

【エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ】

当日留意内容

大会当日は下記の留意内容を遵守すること。

- ・まめに手洗い、手指のアルコール消毒を行うこと。
(試合前中後、トイレ前後、ボールおよび物への接触後等)
- ・会場内外では、必ずマスクを着用すること。(試合中は含まない)
※ウォーミングアップ中は熱中症に十分気を付けること。
- ・待機時における身体的距離を確保すること。(できるだけ2m。最低1m。)
- ・3密を回避すること。(密集・密接・密閉)
- ・タオルおよび飲料、サプリメント(プロテインバー・チャージ系ゼリー)の共用はしないこと。
- ・会場内での食事は禁止とする。
- ・チーム同士、審判との握手、ハイタッチは行わないこと。
- ・集合写真、円陣等密になることは行わないこと。
- ・水やスポーツドリンクは各選手専用のペットボトルを準備すること。
- ・クーラーやタンクの共有は行わないこと。
- ・ビブスの共有は行わないこと。
- ・記録のために共有する文房具等、共有して使用するものは消毒すること。
- ・車いすのハンドリムや触れる場所はよく拭き、清潔に保つようにすること。
* 塩素系の消毒液の使用は避け、アルコールもしくはエタノールで拭くこと。
* ゴム製品は雑巾で水拭きしてゴミを取り、乾いてから除菌スプレーや、シートで拭くこと。

【運営スタッフの皆様へ】

事前留意内容

大会当日まで下記の留意内容を遵守すること。

なお、大会当日も会場入り口にて検温検査を行います。37.5度以上または平熱+1.5以上の発熱があった場合、速やかにご帰宅いただきますので、予めご了承ください。

『日常生活』

- ・ 不要不急の外出は控えること。
- ・ 外出時や屋内でも会話を行う際は、必ずマスクを着用すること。
- ・ まめに手洗い、手指消毒を行うこと。
- ・ 身体的距離を確保すること。(できるだけ2m。最低1m。)
- ・ 3密を回避すること。(密集・密接・密閉)
- ・ 毎日の体温測定、健康チェック。※JBA指定健康チェックフォームの提出が必須となります。

当日留意内容

大会当日は下記の留意内容を遵守すること。

- ・ まめに手洗い、手指のアルコール消毒を行うこと。
(業務前中後、トイレ前後、ボールおよび物への接触後等)
- ・ 会場内外では、必ずマスクまたはフェイスシールドを着用すること。
- ・ 検温所スタッフおよび受付スタッフはフェイスシールドとラテックス手袋を着用すること。
- ・ 身体的距離を確保すること。(できるだけ2m。最低1m。)
- ・ 3密を回避すること。(密集・密接・密閉)

【チーム・選手チェックリスト】

| シーン | 項目 | チェック欄 | 備考 |
|---|---|-------|----|
| 1 事前準備 | (1) チーム内において感染対策責任者を定め、所属協会・連盟担当者の連絡先を把握する。 | | |
| | (2) 活動する上での注意事項を関わる全ての方と共有し理解してもらう。(不安がある場合は参加を見送る) | | |
| | (3) チーム内の選手・スタッフの健康管理表を入手し、活動日まで健康チェックを行う(活動日2週間前までの検温と行動記録の確認を推奨します) | | |
| | (4) 選手が未成年の場合は、保護者が活動内容を理解しており、参加を了承している。(了承しない場合は無理に参加させない。) | | |
| 2 往復の移動 | (1) マスクを着用する。 | | |
| | (2) 往復の交通公共機関利用時にはラッシュ時や混んでいる車両を避ける。 | | |
| | (3) 窓を開ける等、換気がよくなる工夫をする。 | | |
| | (4) 切符を買うために使う指を限定し、その際に使用した指で顔や目を触らない。 | | |
| | (5) 電車・バス等公共の交通機関内において、常に他者と距離をとり、会話を控える。 | | |
| | (6) 目的地に到着後、特につり革、手すりなどを触った手を洗い、消毒、うがいをする。 | | |
| | (7) 寄り道をせずに、できるだけ早く帰宅する。 | | |
| 3 トレーニング・試合前 | (1) 選手・指導者・スタッフはプレー時以外はマスクを着用する。 | | |
| | (2) 選手・指導者・スタッフは健康チェックシートをチームの感染対策責任者に提出する。 | | |
| | (3) 着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る。 | | |
| | (4) 更衣室が狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアを開けっ放しにする。 | | |
| | (5) 握手やハイタッチ等は行わない。 | | |
| | (6) 円陣は行わない。 | | |
| | (7) ミーティングの回数・時間を減らす、もしくは行わない。 | | |
| 4 トレーニング・試合中 | 試合関係者のコミュニケーション、給水等 | | |
| | (1) 指導者・スタッフ、ベンチに座る選手はマスクを着用する。 | | |
| | (2) プレー以外の不要な接触を避ける(得点後の喜び、交代時の握手等)。 | | |
| | (3) コート上でチームメイト、審判員と会話する際にも距離についてしっかりと配慮する。 | | |
| | (4) ベンチでの選手間の距離を保つ。 | | |
| | (5) 交代の選手は、アップ時の他の選手との距離にも注意を払う。 | | |
| | (6) 水・氷を溜めたクーラーボックスにボトルを漬けない。 | | |
| | (7) ボトルを他の選手と共有しない。 | | |
| | (8) タオル等、リネン、ピンス等を他の選手と共有しない。 | | |
| | (9) 屋内コートおよび3x3スポーツコート(屋外コート含む)ではコート用シューズのみの使用とする(屋外用シューズでコートに入らない)。 | | |
| | (10) テーブルオフィシャルを担当する者はマスクを着用する | | |
| | ハーフタイム・交代・退場時、試合終了時の対応 | | |
| | (1) 更衣室に戻る前に消毒や手洗い、うがいをする。 | | |
| | (2) 選手交代後においても消毒や手洗い、うがいをする。 | | |
| (3) 退席や退場の際等、審判員と会話することがあったとしてもその距離には十分に配慮する。 | | | |
| (4) 怪我をした選手を他の選手がむやみに接触しない。また、コート外に当該選手を移動させる際は、おんぶやだっこを避け、担架を活用する。仮に、おんぶ等をして当該選手を移動させた場合、移動に関わった人は速やかに消毒を行う。 | | | |
| (5) メディカルスタッフはラテックスグローブを活用する。 | | | |
| (6) 試合後のチーム、審判員との挨拶、相手チームベンチへの挨拶は行わない。 | | | |
| 5 トレーニング・試合後 | (1) 更衣室が狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアを開けっ放しにする。 | | |
| | (2) 着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る。 | | |
| | (3) シャワーの利用についてはローテーションを組んで交代で浴びる等の工夫をする。 | | |
| | (4) 試合会場のルールに従い、ゴミを密封した状態で処分するか、持ち返る。 | | |
| 6 帰宅後の過ごし方 | (1) 手洗いうがいを徹底する。 | | |
| | (2) バランスの良い食事をとる。 | | |
| | (3) 検温と共に行動記録を書く。 | | |
| | (4) 早めに就寝し、十分な睡眠時間を確保する。 | | |
| 7 事後対応 | (1) チームの中から感染者が出た場合は、感染対策責任者に速やかにその旨伝える。 | | |

【チーム・選手チェックリスト】

| | | | |
|------------|---|--|--|
| 8 施設用具等の対応 | 手洗い場所 | | |
| | (1) 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意すること | | |
| | (2) 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること | | |
| | (3) 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意すること（利用者にマイタオルの持参を求めても良い。） | | |
| | (4) 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒用薬を用意すること | | |
| | 更衣室、休憩スペース | | |
| | (1) 広さにはゆとりを持たせ、他の利用者と密になることを避けること（障がい者の介助を行う場合を除く） | | |
| | (2) ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する等の措置を講じること | | |
| | (3) 室内又はスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）については、こまめに消毒すること | | |
| | (4) 換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮すること | | |
| | (5) スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをすること | | |
| | 洗面所 | | |
| | (1) トイレ内の複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒すること | | |
| | (2) トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること | | |
| | (3) 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意すること | | |
| | (4) 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること | | |
| | (5) 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意すること（利用者にマイタオルの持参を求めても良い。） | | |
| | スポーツ用具の管理 | | |
| | (1) 利用者にスポーツ用具を持参してもらうよう周知すること | | |
| | (2) やむを得ず共用するスポーツ用具については、手が頻りに触れる箇所を工夫して最低限にした上で、こまめに消毒すること | | |
| | (3) スポーツ用具の貸出を行う場合は、貸出を行った利用者特定できる工夫をすること | | |
| | (4) 貸出前後に消毒すること | | |
| | 観客の管理 | | |
| | (1) 施設に観客も入場させる場合には、観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとること | | |
| | (2) 大声での声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合にはマスクを着用すること等の留意事項を周知すること | | |
| | 運動・スポーツを行う施設の環境 | | |
| | (1) 換気設備を適切に運転することや、定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うこと | | |
| | (2) 体育館の床をこまめに清掃すること | | |
| | (3) 体育館等の施設においても、密な状態とならないようにすること | | |
| | 施設の入口 | | |
| | (1) 手指の消毒設備を設置すること | | |
| | (2) 施設利用時の利用者が遵守すべき事項のチェックリストを掲示すること | | |
| | ゴミの廃棄 | | |
| | (1) 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用すること | | |
| | (2) マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸（ポンプ型の液体または泡石鹸）と流水で手を洗い、手指消毒すること | | |
| | 清掃・消毒 | | |
| | (1) 市販されている界面活性剤含有の洗浄剤や漂白剤を用いて清掃すること | | |
| | (2) 通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を、始業前、終業後に清拭消毒すること | | |
| | その他 | | |
| | (1) 運動・スポーツの際の栄養補給等として飲食物を利用者に提供する際は、以下などに配慮して適切に行うこと | | |
| | (2) 利用者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること | | |
| | (3) スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップを提供すること。ドリンクを冷やすためのアイスボックス・イベントクーラーは使用しない。 | | |
| | (4) 飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること | | |

チーム感染対策責任者： _____

【健康チェックフォーム】

エントリー後、主管者から送付される指定の方法にて2週間の健康管理を行う。

The screenshot shows a mobile application interface for a health check form. At the top, there is a navigation bar with a back arrow, a QR code icon, an envelope icon, and a share icon. The title of the screen is "健康観察入力画面" (Health Observation Input Screen). Below the title, there are input fields for "日付" (Date) set to "2021-04-01" and "測定時刻" (Measurement Time) set to "10:00". A section for "体温(朝)" (Morning Body Temperature) includes a minus button, a dropdown menu showing "---", a decimal point, another dropdown menu showing "---", and a plus button with "°C". Below this is a link that says "音波通信体温計から入力" (Input from ultrasonic communication thermometer). The form contains three questions, each with radio button options:

- Question 1: "いつもと違う症状はありますか?" (Are there any symptoms different from usual?). Options: 有り (Yes), 無し (No).
- Question 2: "本日、解熱剤/せき止め等の薬を飲みましたか?" (Did you take any fever-reducers/cough suppressants today?). Below it is a note: "※感染症（風邪や肺炎など）に関する薬以外については「いいえ」にしてください。" (For medicines other than those related to infectious diseases like colds or pneumonia, please select "No"). Options: はい (Yes), いいえ (No).
- Question 3: "本日、感染症の検査をしましたか?" (Did you get an infectious disease test today?). Options: した (Yes), しなかった (No).

At the bottom, there is a section for "テスト" (Test) with the text: "さんの 上記健康記録をスマートフォンに保存します。" (We will save your above health record to your smartphone). The bottom navigation bar has five icons: HOME, カレンダー (Calendar), グラフ (Graph), 検査結果 (Test Results), and お薬手帳 (Medicine Book).

【感染予防対策機器】

『検温機器』

※会場入口に設置し実施。



AI測定機能搭載サーマルカメラ
高精度・非接触で発熱者を検知する

測定精度 ±0.5°C
測定距離 1m / 3m
測定温度範囲 30-45°C
測定時間 1秒
最大測定人数 1名 / 20名

※レンタルのみで取扱いとなります。販売はしていません。
※電源（電池）費別。設置費も費用がかかります。
※ドーム型はPCが必要となります。

人体表面温度に特化し、**±0.5°Cの高精度な計測**が可能。
検出基準もユーザーが設定可能

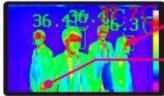


37.5°Cで設定の場合
設定基準線を超えると
画面アラート
自動アラートがPCモニター
にてお知らせ。

非接触型なので感染リスクが低くなり、
カメラの前を通過するだけ
測定速度はわずか**1秒以内**で自動測定



独自のアルゴリズムで**顔を終点にして温度測定**
をするので、手元などに濡らした飲み物を持っていても高い
精度で測定をおこないます。



顔を判別し測定
濡らしたものを握っている
手などは測定をせず

最大20名まで**同時測定**可能 ※ハンディ型は1名
大勢の人が往来する場所や施設でも瞬時に顔認識し同時測定



ドーム型

専用三脚があるので、移動も可能!!
場所を選ばずどこでも設置可能!!
非接触型で3m離れたところから測定可能!!

3m

20名まで

接続は簡単
LANケーブルとHUBでPCと接続するだけ



LANケーブル HUB PC

付属品

本体
三脚+取付金具(伸縮式1.5m)
LANケーブル(10m)×2本
電源ケーブル(POE電源/5ポート)

本体
三脚+取付金具(伸縮式1.5m)

オプション品

汎用型温度計 (アラーム付き) PC基本設定ガイド
卓上モニター <20型> <40型> <55型>
モニタースタンド

ハンディ型

本体を手で持つハンディタイプ!!
非接触型で1m離れたところから測定可能!!
三脚でも使用可能!!

1m

1名まで

単独で使えるので接続などは不要!!
充電式で最大8時間連続使用可能!!
SDカードにスクリーンショットを保存可能!!

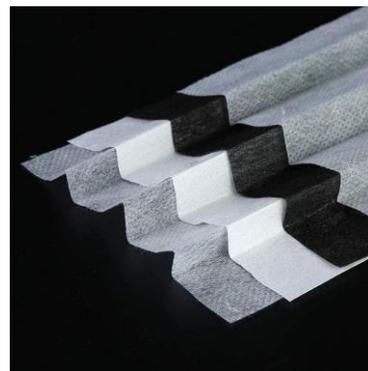


ケーブル コンセントにつなげば
充電を気にせず連続使用可能!!

【感染予防対策用具】

『マスク(三層構造)』

※未開封(新品)を選手及び関係者、スタッフ全員へ配布。



『使用済みマスク回収BOX』



『消毒用アルコール(70%以上)』



主成分 エタノール製剤 (75V/V%) !
(新型コロナウイルス 厚労省推奨70%以上)
補助成分 塩化ベンザルコニウム (0.1W/V%) !

【感染予防対策用具】

『フェイスシールド』

※MC&TO、検温所&受付スタッフへ配布



『マウスシールド』

※DJ、レフリー、スタッフへ配布。



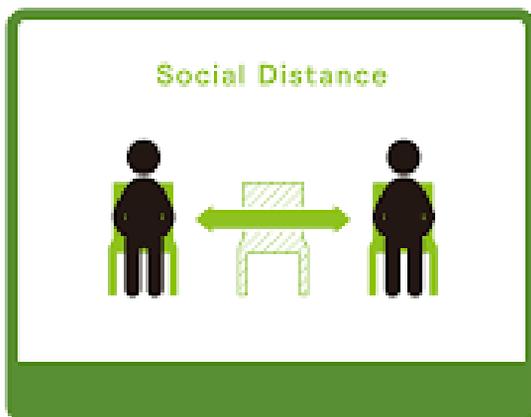
『ラテックス手袋』

※看護師、受付スタッフ等へ配布。



【感染予防対策用具】

『ソーシャルディスタンス』 選手、レフリー、スタッフ待機場所。



『選手更衣室』



密防止のため一人用更衣室を2台設置。
入口にはアルコールスタンドを設置。

【感染予防対策用具】

『テーブルシールド壁』

※TO&MC&DJ卓に設置。各テーブルにはアルコールボトルを設置。

TO(ショットクロック)



TO(得点&タイマー、スコアラー)



MC



DJ

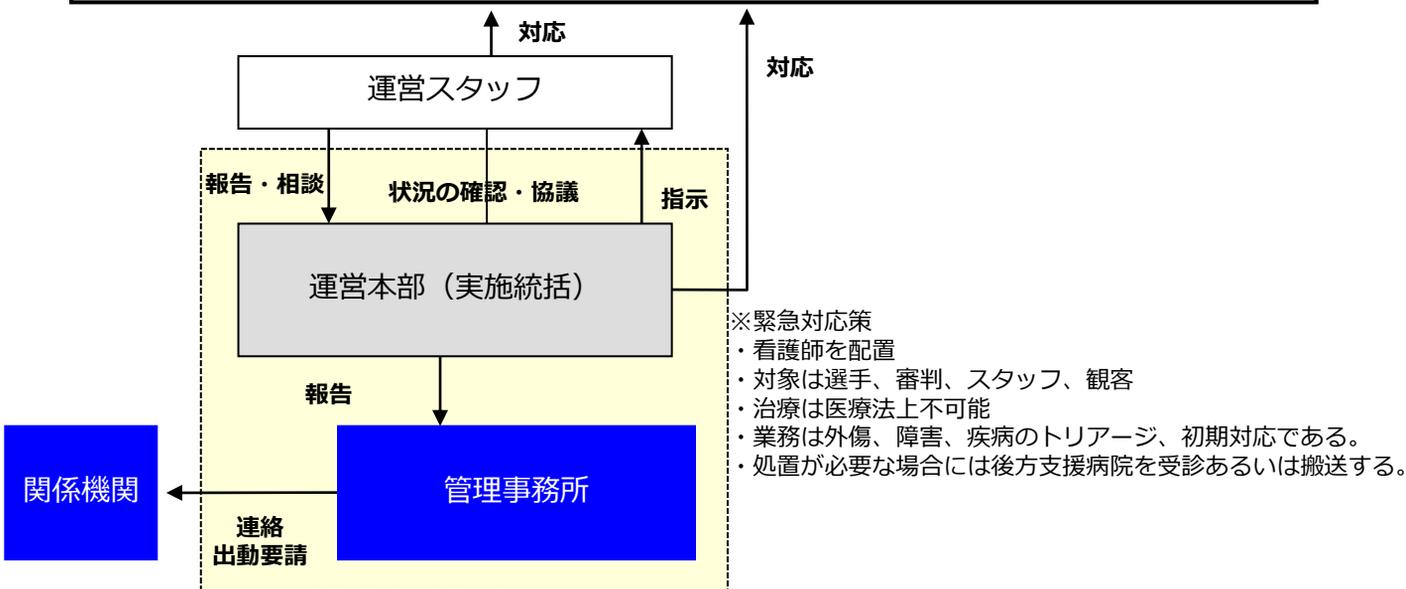


◇緊急時対応

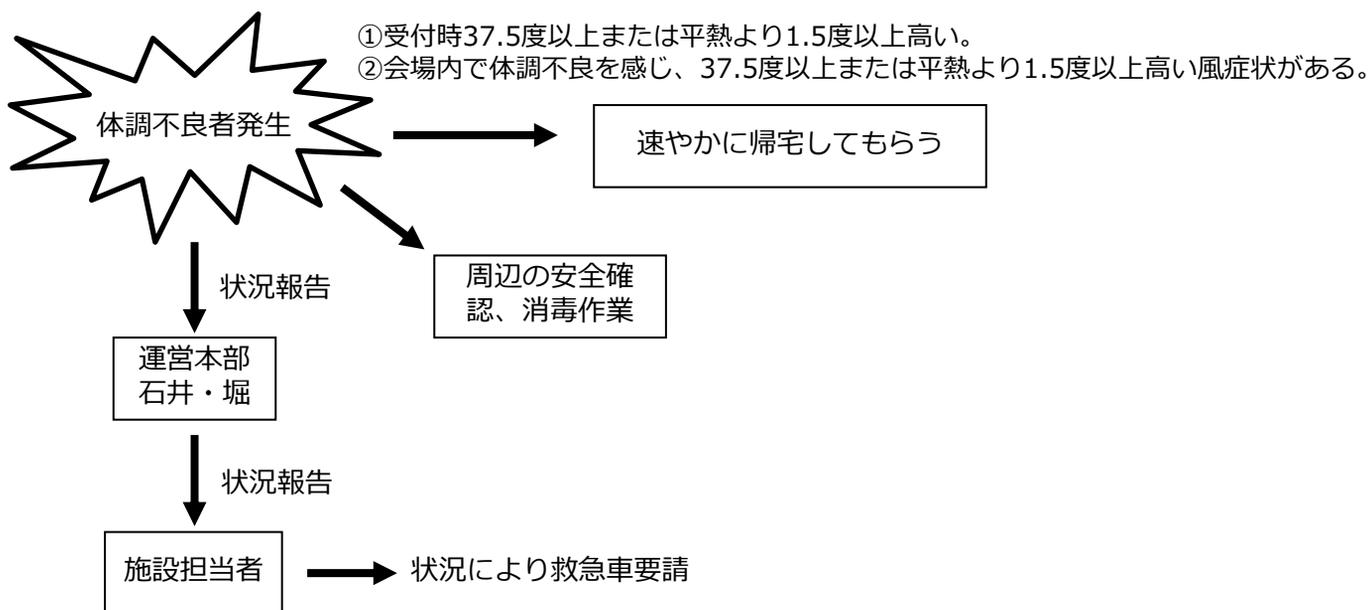
不審物・不審人物を発見 迅速に担当責任者へ報告をし指示に従って下さい。不審物には手を触れないで下さい

火災・ボヤ 迅速に担当責任者へ報告をし指示に従って下さい。速やかに初期消火を行って下さい。

怪我・急病人 迅速に担当責任者へ報告をし指示に従って下さい。



◆大会開催期間中に感染の疑いがある者が出た場合





■×☞
